

復 命 年 月 日	令和 6 年11月29日
出 張 年 月 日	自 令和 6 年10月30日（水） 至 令和 6 年10月31日（木） 2 日間 宿泊 有
用 務 地	①山口県山陽小野田市 ②福岡県久留米市
用 務	広報広聴委員会行政視察
て ん 末 (資 料 添 付)	①山口県山陽小野田市議会 山陽小野田市議会では、議会だより・公式YouTube・公式SNS等、市民への情報発信を主とする広報特別委員会と、市民懇談会・議会モニター・議会カフェ等、市民の意見を聞くことを主とする広聴特別委員会とに役割分担されている。 ・ 広報特別委員会の取組について 令和 6 年 6 月に発行された議会だよりから、紙面の大幅なリニューアルが行われており、表紙は「議論」というタイトルで週刊誌風の目を引くデザインに一新された。情報を分かりやすく伝え、読みやすいフォントサイズでの紙面づくりが行われている。 本会議および委員会のインターネット中継を、業務委託により行われている。議場で開催される会議については市議会ホームページ上で公開しており、ランニングコストは年間約120万円。常任委員会や特別委員会等については公式YouTubeで公開しており、ランニングコストは年間約48万円。 平成 26 年 8 月より公式Facebook、令和 6 年 6 月より公式Instagramの発信が行われている。広報活動の強化を目的とし、注目度が高く運用しやすいものを選択し、導入したとのこと。主に議長の動きや議会日程を発信されており、コメント欄は使用していない。 ・ 広聴特別委員会の取組について 市内で活動を行う団体等の申し込みにより開催する市民懇談会は、特定のテーマを設定し、これまでに40回、延べ717人の参加者があった。 令和 4 年 7 月より議会モニターを導入されており、現在公募 7 人、団体推薦 6 人のモニターと毎定例議会後に対面での意見交換会を実施されている。 議会報告会はリラックスした雰囲気ですくばらんに意見交換をするため、お茶を飲みながら小グループで行う議会カフェを開催されている。カフェの参加者について、議員 1 人につき 3 人以上、広聴委員 1 人につき 5 人以上の出席者を動員することを義務付けられている。各常任委員会の委員長は、市民からの疑問・質問に対応するため、グループには入らず待機している。

【委員所感】

議会だよりについて、レイアウト・フォントサイズともに読みやすく、伊万里市議会でも参考にすべきと感じた。フォントサイズを上げるとは読みやすさにつながる一方で、情報量については減ってしまうので、バランスを考えるとともにQRコード等で他の情報表示先に誘導するなどの工夫が必要だと考える。一般質問について、1人につき大項目を1つに絞られていたので、複数項目の一部しか掲載できないよりも市民に内容が伝わりやすいと感じた。

伊万里市議会では、広報と広聴を一つの委員会で担当しているため、どうしても議会だよりの編集作業を優先せざるを得ず、広聴機能の強化に注力できていない現状がある。役割を分けることで議会の発信力強化につながることは間違いないので、今後の検討課題の一つであると考えます。(加藤)

議会だよりについて、表紙が週刊誌風なデザイン、議員全員の写真の掲載、「議論」という表題が斬新であり驚いた。こういうアイデアこそが市民の目を引くものだと感じた。一般質問ページも名前にふりがなが付けられており、全体的な字の大きさも含め親切感があるように思った。伊万里市でも表紙の変更、字の大きさも検討するのも良いのではと思う。

議会カフェについて、カフェにいるようなリラックスした空間を創り、意見交換をするのは市民の方も気軽に参加できるのかなと思った。ただ、参加者の動員に議員に3人から5人の義務があるということで同一人物が何回も参加しているという現実もあり、この点の課題は伊万里市と同じであると思う。まずは市民の方に議会へ傍聴に来ていただき、その後に意見交換をするなど、一連の流れを作ることも良いのかと思う。(力武英)

山陽小野田市議会の特徴は、特別委員会で広報特別委員会と広報特別委員会とで分かれて運営していること。担当議員が「両方一緒だと委員長を引き受けていなかった」と言ったように、両委員会で様々な取組をされており、今後の伊万里市における広報広聴委員会での在り方にも大変参考になった。また、議会報告会における常任委員長の別配置は、委員が市民への返答に困った場合の対応のため有意義であると感じた。(金原)

議会基本条例の着実な遂行に向け、慣れ親しんだ議会だよりの名称変更や表紙の変更に舵を切られたことに、どこの議会も向かうところは同じであると感じた。議会だよりによる一般質問の表現の仕方として、限られたスペースの中で写真やイラストも入れ、より読みやすく、分かりやすく親しみを感じる構成となっていた。

市民懇談会、市議会モニター制度、議会報告会等、議会基本条例

の具現化に向け、粛々と実践されていることに敬意を表したい。伊万里市議会も活動の根幹をなす議会基本条令に基づく推進並びに活動の追加の是非を検討すべきと感じた。

議会広報活動として本会議中継に加え、伊万里市議会では未実施の委員会中継、公式SNSの発信をなされている。伊万里市議会として配信に向け費用対効果を始め、大いに議論すべきと感じた。
(塚本)

山陽小野田市議会の取組には、市民との距離を縮めるための効果的な工夫が多数見られ、伊万里市議会にも参考にできる点が多くあると感じた。特に、議会だよりの表紙を週刊誌風に工夫して興味を引く取組は、視覚的に引き込まれやすく、普段関心が薄い方にも手に取ってもらえる可能性が高まるのではないかと考える。伊万里市議会でも、同様の手法で「パッと見て読みたくなる」デザインを採用すれば、さらに市民の関心を集めることができるかもしれない。

また、YouTubeやSNSの活用によって若年層にもアプローチしている点は、現代における広報の重要な手段だと感じた。議会事務局の負担を軽減しながら効率的に情報発信を行うには、確保される人員とのバランスが求められるため、伊万里市議会に導入する際には、そのあたりをよく検討する必要がある。

市民懇談会や市議会モニター制度を通じた市民参加の仕組みは、地域の課題を共有し、解決策を議論する上で非常に有効だと感じた。幅広い世代が参加することで多様な視点が得られ、議会運営の改善点を見つけるきっかけにもなると考える。また、議会報告会を「議会カフェ」の形式で実施することで、よりフレンドリーで意見交換がしやすい雰囲気生まれ、市民が気軽に参加できる場としての役割も果たせる。山陽小野田市議会ではまだ幼い子を連れた親子連れの参加実績はまだないとのことだったが、子ども連れでも参加しやすい工夫をすればさらに幅広い市民層からの参加が期待できると思う。

小野田市議会のような広報・公聴活動を取り入れることで、伊万里市議会も市民にとってより親しみやすく、信頼される存在になれるのではないかと考える。(木寺)

ユニークな発想の議会だよりやYouTube配信を通じた情報発信、市民懇談会やモニター制度、議会カフェなど、さまざまな手段で市民の意見を聞き、市民参加の広報広聴活動をされていると感じた。本市でも、リラックスした雰囲気の中で、市民と議員が気軽に話し合える議会カフェを開催したいと思った。(児玉)

議会カフェの設営・運営マニュアルが細かいところまでいきとどいている。何よりも全議員の義務として、議員1人につき参加

者3人以上、広聴委員1人につき参加者5人以上の出席を要請するという点はインパクトがあった。100人前後の参加があれば、ポスターの掲示やチラシの配布の意義も出てくるし、議員1人ひとりの気合いの入り方が変わると思う。何よりも本委員会の存在意義が出てくる。伊万里市議会も是非とも取り組みを検討すべきである。(松尾真)

②福岡県久留米市議会

・市議会だよりの企画と編集について

市民より、写真やイラストが少なく「文字ばかりで読みたくない」「堅苦しくて何が書いてあるかわからない」等の意見があり、令和2年に議会だよりを全面リニューアルされている。

できるだけ文字を少なくし、読みものとしての特集を組むなど、読みやすい平易な文章を心がけられていた。一般質問は1項目に絞る、議会について漫画にして説明する、議員の個性や人となりを写真付きで掲載する、レイアウトを雑誌風にするなど、様々な工夫が見られた。令和6年4月に行われた中核市議会議長会・議会報コンクールでは最優秀賞を受賞されており、市民が親しみやすい編集になっている。

表紙写真の撮影、特集、漫画の作成、全体のレイアウト等を民間事業者に委託されており、令和6年度は企画編集業務委託料として308万円を支出されている。1号の発行につき3回の会議を開催し、委託先の民間事業者も会議に出席している。

・YouTube、Facebookを活用した情報発信について

議会基本条例において、議会をより身近に感じてもらい、市民の関心を高めることを目的に、令和3年6月からFacebook、令和5年9月からYouTubeの配信がスタートした。YouTubeの導入費用は10万5千円で、ランニングコストはノートパソコン2台のリース料で年間7万4千円を支出されている。

文章や画像の作成は議会事務局で行われており、市議会のお知らせ等を投稿されていた。コメントに関しては返信しないことをルール化されている。本会議や委員会と同じ内容になりがちで、フォロワー数が伸びないことが課題とのことだった。

【委員所感】

議会だよりについて、令和2年に企画編集業務を民間事業者に委託してリニューアルされており、写真・企画・レイアウト等が民間目線で制作されている一方で、議会という特殊な言葉や内容を取り扱うため、完全に委託業者任せにできない部分が多々あり、議会事務局職員の苦労も垣間見えた。企画編集業務委託料が年間308万円とのことなので、この金額相応の制作過程および結果物で

	あるかは都度検証する必要があると考える。委員会に委託業者も参加している点は利点である。 久留米市では広報紙のデジタル化＝紙の廃止の検討を始めているとの話があり、もし議会だよりをデジタル化するならばどのような方法かとの問いに、紙面をデータ化しての配信ではなく、ブログ形式のようなイメージであるとの回答だった。完全デジタル化は遅かれ早かれこの自治体も検討すべきタイミングが来るかと思うが、情報が流れて埋もれていくような配信ではなく、きちんと情報を届けられる方法を検討すべきと考える。(加藤) 議会だよりについて、市民より文字ばかりで読みたいくない、堅苦しく内容が分からない等の意見に対し、令和2年に全面リニューアルされており、漫画による議会の説明など工夫されていた。批判も多少はあったようだが、身近で分かりやすいと思った。表紙の撮影、漫画の作成などを民間事業者に委託されており、また会議にも参加されているとのことで伊万里市でも印刷会社に会議に参加して頂けるよう、予算も含め検討すべきであると思う。中核市議会議長会で最優秀賞を受賞されているため、完成度は高くても良いが、議員の手作り感がないようにも感じた。 Facebook、YouTube配信について、導入費用など安価であり、情報発信のツールとしては良いと思った。配信作業や編集を全て議会事務局でされており、事務局側の負担も検討すべきだと思った。フォロワー数が伸びないとのことだったが、配信内容の検討も必要であり、周知には多少の時間が必要であるように思った。(力武英) 市議会だよりの全面リニューアル、特集や漫画、学生の登場などのコンテンツ開始、企画編集業務の委託と大変斬新な取組に驚愕したが、豊富な予算によるものでもあり伊万里市においては取り入れるには難しいと感じた。また、原稿編集やSNSにおいては議会事務局の職員頼りのことも多いため、かなりの負担があるのではと感じた。さらに議会カフェにおける議員1人につき参加者3人以上の動員には違和感を覚えたが、そうでもない人と人が集まらない現状は伊万里市においても同じであり、今後の大きな課題であると感じた。(金原) 議会基本条例の着実な遂行に向け、慣れ親しんだ議会だよりの名称変更や表紙の変更で舵を切られたことに、どこの議会も向かうところは同じであると感じた。議会だよりによる一般質問の表現の仕方は、1人の議員につき1質問1答弁のみであり、その他の質問については標題の紹介のみであった。伊万里市議会として、各議員の一般質問に対し、表現の仕方をどうするかを議論する価値はあると感じた。
--	---

議会広報活動として、伊万里市議会では未実施のYouTubeでの委員会報告やFacebookでの本会議、委員会内容、市議会として参加した行事などを工夫や課題を持ちながら発信をされている。伊万里市議会として費用対効果を始め、大いに議論すべきと感じた。
(塚本)

「市議会だより くるめ」に関する説明を受け、改めて議会だよりが市民との大切なコミュニケーションツールであることを実感した。市民が気軽に市政に触れられるよう、読みやすく親しみやすい紙面作りに力を入れている点に共感を覚えた。特に、「ふざけているのか？」と思われるほどの大胆なデザインや漫画の導入など、議会だよりに対する従来の堅苦しいイメージを覆し、市民が手に取りたくなる内容を追求している点は、伊万里市議会の議会だよりにも新しい視点として取り入れられるのではないかと思う。

また制作において、民間業者の専門的なノウハウを活用しながらも、最終的な内容に責任を持つのは議会であるという姿勢が貫かれている点も印象的だった。議会だよりが市民にとっての「議会の顔」として機能する以上、専門業者に任せきりにするのではなく、細部まで議会側が関わっていることは、広報の質を高めるための重要な努力だと感じた。一方で、紙面制作の際に内容の分かりやすさを追求するために、議会事務局や広報委員が多く時間と労力をかけている現状には、課題もあるように思う。今後、さらなるデジタル化が進めば、コスト削減だけでなく、若い世代や多様な層へのアプローチの幅も広がり、紙媒体だけでは届きにくい層にも議会活動を発信できるのではないかと感じた。

中核市議会議長会・議会報コンクールにおいて最優秀賞を受賞したとのことで、これは久留米市議会が市民のために広報活動に真摯に向き合っている証であり、市民に対するわかりやすさや親しみやすさを追求する姿勢はとても参考になる。

YouTubeやfacebookを活用した情報発信について、やはりこれに関しては他の議会同様に久留米市議会でも様々な課題を抱えている印象だった。投稿は工夫をしているものの、どうしても本会議や委員会は同じような記事になりがち、記事を更新してもなかなか閲覧数が伸びないとのことで、それは私自身も議会活動についての記事を更新する中で課題に感じている。しかし《継続は力なり》と信じ、市民の方にもアドバイスをいただきながら、自分らしいSNSの更新を心がけたいと思う。

個人のSNSはそれで良いとしても、議会のSNSを運営するとなると、どの議会も事務局が運営しているところがほとんどで、今の伊万里市議会の事務局体制では厳しいと感じている。現時点では、導入は現実的ではないと思った。(木寺)

	議会だより作成に事務局が加わることで、正確な情報提供がされ、紙媒体とインターネットを上手く活用していると感じた。しかし、委託業者も企画、編集しているが、それ以上に手直しなど事務局の仕事量が増えていると感じた。委員会、委託業者どちらが企画、編集しても課題が多くあると感じた。(児玉) 議会報について、中核市議会議長会・議会報コンクールの審査委員講評を参考にし、久留米市議会報と本市の議会報とを比べたときに何よりも感じたことは、早く手に取って開きたいと思わせる魅力があるということである。それがクルメマンの漫画だとしても、開いてもらえるきっかけになるのならば、議会に興味を持ってももらえるのであれば、素晴らしいことだと考える。本市議会も大いに参考にすべきである。(松尾真)
--	--